

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学 I (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2321
2. 授業担当教員	萩原 治夫		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	医学概論/人体の構造と機能及び疾病に関係します		
7. 講義概要	約 60 兆個の様々なタイプの細胞から構成される人間の身体を全体からみて、その構造 (解剖) と機能 (生理) をうまく関連して考える思考過程を学び、解剖生理学の基本的知識を習得する。 具体的には、表面に現れた各種症状の背景となる、「人体の中で何が起きているのか」、「次に何が起こるのか」、「どう対処すればよいのか」、「予防するにはどうすればよいのか」と考えることができるよう、基礎知識の習得を目標とする。なお、学生たちは専門用語にとらわれがちだが、大切なものは自分自身のものの視方であることを認識させ、グループ討論も積極的に実施する。		
8. 学習目標	以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 人体各部の名称とその位置を表す方向用語、および人体構造の構築 (細胞→組織→器官→器官系→個体) について理解できるようになる。 2. 筋系、骨格系の機能と神経支配について理解できるようになる。 3. 皮膚と体性感覚、頭部と特殊感覚について理解できるようになる。 4. 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系の機能について理解できるようになる。 5. 体液 (細胞内液、細胞外液、血液、リンパ液)、体温とホメオスタシスについて理解できるようになる。 以上の学習を通して、新しい専門的なものに取り組む力を育て、そのことを自己評価できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題: 次の4つの器官系について、その構造や機能、よく知られる外傷や疾病についてまとめる。 (1) 循環器系、(2) 呼吸器系、(3) 消化器系、(4) 中枢神経系。 それぞれレポート用紙に1~2枚程度。図やイラストを含めてもよい。参考文献を記すこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】河田光博/三木健寿/鷹股 亮・編 『解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 (栄養科学シリーズNEXT)』講談社サイエンティフィック 【参考書】藤田恒夫 『入門人体解剖学 改訂第5版』 南江堂 その他、必要に応じてプリントを配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 人間の身体を全体から見て、その構造 (解剖学) と機能 (生理学) を上手く関連付けて理解しているか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加度 (授業態度、発言など) 40% 2. 課題レポート、発表 40% 3. 期末試験 20% 上記のほかに、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位習得の条件であることも考慮する。 また、評定にあたっては、新しい専門的なものに取り組む力を育てそのことを自己評価する力についても考慮する。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. 授業時間の開始は厳守します。 8. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。		
13. オフィスアワー	講義時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	人体の基本構造 I、細胞総論	事前学習	教科書 pp. 1~4 を読んでおく。
		事後学習	細胞の構造と機能についてまとめる。
第2回	人体の基本構造 II、組織学、解剖学総論	事前学習	教科書 pp. 6~16 を読んでおく。
		事後学習	細胞から個体までの階層的な人体の構造についてまとめる。
第3回	骨格系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 18~22 を読んでおく。
		事後学習	全身の骨格、関節、靭帯についてまとめる。
第4回	筋系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 23~31 を読んでおく。
		事後学習	主要筋肉の部位と名称についてまとめる。
第5回	循環器系の構造と機能 I	事前学習	教科書 pp. 32~49 を読んでおく。
		事後学習	心臓の構造と機能、大循環、小循環、胎児循環についてまとめる。
第6回	循環器系の構造と機能 II	事前学習	教科書 pp. 50~61 を読んでおく。
		事後学習	血液や血球、体液についてまとめる。

第7回	免疫系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 62～70 を読んでおく。
		事後学習	免疫系を調節する構造や細胞をまとめる。
第8回	呼吸器系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 71～83 を読んでおく。
		事後学習	呼吸器系の器官を体系的にまとめる。
第9回	消化器系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 84～97 を読んでおく。
		事後学習	各消化管、消化腺の名称と構造をまとめる。
第10回	泌尿器系、生殖器系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 98～117 を読んでおく。
		事後学習	各泌尿器および生殖器系の器官の構造と機能についてまとめる。
第11回	内分泌系の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 118～132 を読んでおく。
		事後学習	代表的な内分泌器官についてまとめる。
第12回	神経系の構造と機能 I	事前学習	教科書 pp. 133～137 を読んでおく。
		事後学習	神経系の基本構造と機能についてまとめる。
第13回	神経系の構造と機能 II	事前学習	教科書 pp. 138～144 を読んでおく。
		事後学習	中枢神経系および末梢神経系の構造についてまとめる。
第14回	感覚器系、皮膚組織の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 145～156 を読んでおく。
		事後学習	感覚器および皮膚の構造についてまとめる。
第15回	まとめ・発表	事前学習	事前に提示された課題レポートについてまとめる。口頭発表の準備。
		事後学習	解剖生理学全般について質疑・応答の内容を含めてまとめる。
期末試験			